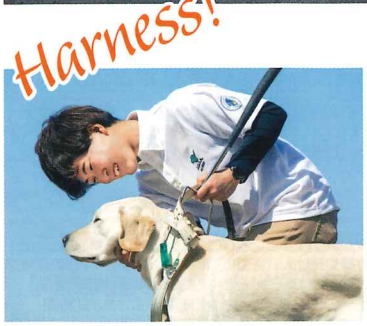
会報
第102号

皆さんと日本盲導犬協会を結ぶ会報です

盲導犬くらぶ

公益財団法人 日本盲導犬協会
発行人　井上 幸彦
223-0056 横浜市港北区
新吉田町6001−9
TEL.045-590-1595
FAX.045-590-1599
https://www.moudouken.net/

新たなステージへ 飛び立つ



2019年に協会付設盲導犬訓練士学校へ入学した、第10期生の杉浦さん、吉澤さん、上田さん、松平さん（写真左から）。
2年間の学科研修・実技訓練過程を修了しました。学校での経験を糧に、胸をはってそれぞれの道へ歩みだします

真のプロフェッショナルとして 見えない、見えにくい人の心に寄り添う

公益財団法人
日本盲導犬協会
理事長
井上幸彦

コロナウイルス感染の先行きが見通せない中、昨年度は協会事業継続へむけ、感染予防対策の徹底はもちろんオンラインの活用など、現場では様々な工夫を重ね業務を進めてきました。今後もウィズコロナを前提にした仕事の進め方を求められることになります。

こうした中、盲導犬ユーザーへの聞き取り調査を行い、コロナ禍で困惑するユーザーの声を聞きとる取り組みがありました。こうした声を社会へ伝え理解を求めていくことも、コロナ禍において重要な事業といえます。

コロナウイルス感染拡大によってひっ迫する医療現場では、日々患者に寄り添う医療従事者の姿が報道されています。以前、私も入院したことがありますが、患者は痛みや苦しみなど様々なことを訴えるわけです。それに対して、看護師は一つひとつ丁寧に聞きながら対応し、自身で判断できないことはしっかりと切り分け、医師の意見を聞き、必ずフィードバックしてくれるのです。まさしくプロフェッショナルだと感じました。

協会の事業においても、このプロフェッショナルとしての対応が求められています。ユーザーの抱える悩みに耳を傾け、その希望に添えるよう心からユーザーに寄り添うことができる、まさしくプロフェッショナルとはそういうものだと思うのです。

決して平たんな道ではありませんが、プロフェッショナルな集団として、この難局を乗り越えてまいりたいと思います。

日本盲導犬協会の歩み 2021.1.1～3.31

2月15日 …… 第11回常任理事会
2月17日 …… 第6回盲導犬育成ジャパンセミナー（オンライン開催）
3月5日 …… 第12回常任理事会
3月25日 …… 第4回理事会

➡1月24日　神奈川訓練センターでパピーの修了式を開催。コロナ感染予防策として、分散して行いました。委託当初に比べパピーとの目線が近くなり、成長が感じられます

⬅1月21日　災害時に盲導犬も一緒にヘリコプターで救助する訓練。2019年に広島市と協会が協力して始まった活動を今回は島根県で実施。協会職員のほか、ユーザー2人が参加しました

⬅3月9日　盲導犬の受け入れ拒否は飲食店で多発。2019年から仙台訓練センターでは飲食店関係者が集う食品衛生講習会でセミナーを実施しています。アンケートでは課題が見えました

●各センター活動報告（1月～3月）

（2021年3月31日現在）

		神奈川訓練センター	仙台訓練センター	富士ハーネス	島根あさひ訓練センター
訓練・ユーザーサポート	共同訓練	6回	0回	1回	0回
	パピーレクチャー	5回	7回	2回	7回
	パピーウォーキング修了式	4回	2回	2回	1回
	ユーザーフォローアップ	56回	48回	19回	21回
	盲導犬説明会/盲導犬体験歩行会	5回	4回	3回	5回
リハビリテーション	短期リハビリテーション	0回	1回（3人）	0回	0回
	その他リハビリテーション	48回（72人）	125回（170人）	38回（111人）	30回（33人）
普及推進活動	見学会・団体見学	1回	0回	0回	1回
	講演・実演・募金活動・受け入れセミナー	14回	38回	5回	25回

メディア掲載件数	
テレビ・ラジオ	15回
新聞	63回
WEB	113回
その他（雑誌など）	9回

主な放送・掲載

1月15日 …… NHK 「おはよう日本」コロナ禍での盲導犬ユーザーの困り事や受け入れ拒否について（昨年12月17日の再放送）
1月21日 …… 中国新聞他1紙TV1局WEB12件　島根県防災航空隊訓練　ユーザーとヘリ救助訓練の様子紹介
1月25日 …… 日本テレビ放送 「news every」コロナ禍でのユーザーの困り事や社会へのお願いについて特集
1月26日 …… NHK静岡放送他1紙WEB1件 「行政職員向け盲導犬オンラインセミナー」富士宮市役所との連携紹介
2月6日-3月1日 …… 産経新聞他8紙　オンライン盲導犬受け入れ・接客セミナーの紹介
2月12日 …… 九州朝日放送他TV1局WEB7件　ドラッグストアモリ贈呈式開催
3月4日 …… 河北新報他1紙　宮城県レンタカー協会創立50周年記念式典　寄付金贈呈
3月11日 …… 点字毎日　仙台ロービジョン勉強会で協会職員とユーザーが進行役に
3月17日 …… 静岡新聞　行政職員向け盲導犬オンラインセミナーについて紹介

TOPICS!

主なできごとの中から ピックアップ

自宅から簡単にできる　新たな寄付を開始 J-Coin Pay募金

みずほ銀行が展開するJ-Coin Payアプリを使った「ぽちっと募金」。寄付先に協会が加わり、2月18日からサービスを提供しています。募金はアプリをインストールしたスマートフォンから。銀行口座の登録が必要となります。コロナ禍で誰とも接触することなく、自宅から簡単に募金ができます。「街頭募金活動の場所が遠くて募金に行けない」「コロナ禍で、近所でやっていた募金活動が中止になってしまった」「コロナ感染予防で人と接触したくない」……離れていてもあたたかい気持ちを届けられる募金方法です。金額は最低1000円から可能。新たな生活様式に合わせ、協会ではより便利に、効率的に支援いただける方法を模索しております。

仙台訓練センター　5月に開設20年 東日本大震災ではすべての視覚障害者の救援活動を展開

東北で唯一の盲導犬育成施設の仙台訓練センター「スマイルワン仙台」。開設は2001年5月24日にさかのぼります。仙台市青葉区の山あいの緑に囲まれた一画に訓練棟、犬舎、人工芝のドッグラン場が広がります。

ここは盲導犬だけでなく、視覚障害リハビリテーション事業も活動の柱です。東北は視覚障害者支援の空白地帯と言われていましたが、仙台訓練センターは白杖（はくじょう）歩行や日常生活の訓練、福祉機器の取り扱いなど、目の見えない人、見えにくい人のQOL（生活の質）の向上に重要な役割を担っています。

訓練センターの試練は11年3月の東日本大震災。訓練犬など17頭を神奈川訓練センターへ避難させ、各訓練センターを総動員し被災地域のユーザー55人の安否確認を行い、状況に応じた支援を展開しました。また日本盲人福祉委員会の「視覚障害者支援対策本部」の宮城県支部の拠点となり、沿岸部の避難所を回り視覚障害の方へ白杖や音声時計、食料などを届け、必要な支援へと結び付けました。

仙台訓練センターが発足してから、社会に送り出した盲導犬と視覚障害者（ユーザー）のユニットは合わせて63ユニット（3月末現在）。今年は開設20年、震災後10年の節目にあたります。

⬅震災後、多くの方が応援メッセージを書きこんでくださった横断幕。今も大切に飾ってあります

コロナ禍でも前を向いて 盲導犬育成ジャパンセミナー オンラインにて開催

第6回盲導犬育成ジャパンセミナー（全国盲導犬施設連合会主催）が2月17日、初めてオンラインで開かれました。日本盲導犬協会が主幹し、連合会加盟の全国8つの盲導犬育成団体から約130人が参加。発表された10の研究題材は、犬の繁殖で出産日を絞り込むため妊娠後のエコー検診を活用する取り組みや盲導犬の受け入れに関する社会理解のアンケート調査結果、民間企業と共同開発した新しいハーネスの発表など、盲導犬育成事業を取り巻く幅広いテーマでした。

日本盲導犬協会からは3人が発表。富士ハーネスの末永陽介・訓練部職員は、引退犬だけでなく重篤疾患を含むさまざまな犬を受け入れ、多角化している引退犬棟について報告。今後それぞれの犬のケア目的に応じた環境整備をより充実させることや、犬の最期を看取（みと）る職員の心のケアの重要性についても言及しました。

神奈川訓練センターユーザーサポート部・金井政紀管理長は、「コロナ禍の産物」としてオンラインにて開催したセミナーを紹介、課題や展望を語りました。コロナ禍でも各協会が歩みを止めず、努力や工夫を凝らして事業発展のため前進をした一年間を共有しました。

⬆仙台訓練センター奥澤優花・普及推進部職員は、宮城県で行った飲食店へのアンケート調査結果を発表。受け入れ義務を知らなかった事業者が56％に及んだと指摘し、身体障害者補助犬法がいまだ浸透していない現状を訴えました

視覚障害者を取り残さないために
福祉窓口ができること 対応への不安は？

行政職員向け盲導犬セミナー実施報告

オンラインなら気軽に 全国からのべ81団体参加

101号で紹介した「行政職員向け盲導犬オンラインセミナー」ですが、必要な福祉サービス情報が得られないことで、視覚障害の方が社会から取り残されることがないよう、行政との連携強化を目指した初の試みです。

メディアで発信すると共に今までつながりのあるおよそ500の自治体へ案内を送付し参加を呼びかけました。昨年12月から4回開催して、北海道から九州までのべ81団体が参加しました。「自治体の盲導犬担当者なので」「業務に必要だから」「知識を持ちたい」といった動機に加えて、オンラインの気軽さから参加を決めた方もいました。

盲導犬の理解から 視覚障害理解 サービス向上へ

1時間のセミナーでは、「盲導犬を使用するには」といった案内を入り口に、行政窓口を訪ねてくる視覚障害の方にとって「手帳交付と併せて必要な情報がある」ことを訴えました。外出のサポートには、白杖（はくじょう）や同行援護（人のサポート）の他、盲導犬が利用できること 、受けられる行政サービスの一覧や日常生活用具類の紹介、パンフレットだけでなく音声CDでも準備しておくなどです。

また当事者が自筆でサインできるよう、黒い厚紙を切り抜いたサインガイドの作成など、ちょっとした工夫が窓口サービスの向上につながると伝えました。「どのくらいの大きさでどこから書いてもらうのか説明が難しかった。サインガイドがあれば解消できる。早速作りたい」。参加者は、現場で不安を抱えながらも改善への意欲を見せていました。

⬅飲食店での盲導犬の様子。受け入れに関する相談や、入店拒否が起こった際、解決へむけ事業者への指導などを行うのも行政の重要な役割です

「盲導犬の社会理解」 行政の取り組み事例

盲導犬を取り巻く社会理解については、ユーザーの半数以上が受け入れ拒否に遭っていて、飲食店を対象に行ったアンケートでは、半数以上が法律による受け入れ義務を認識していないという事実に驚きの声もありました。

「市民へむけ補助犬の理解を促すよう、広報活動の機会を増やす方法を検討したい」とした前向きな意見がある一方で、「実際に受け入れの相談に対応できるか不安」とする声もありました。今回のセミナーを通じて「相談先がわかったことで安心した」「困ったら相談したい」など、協会との連携へ期待も寄せられました。

行政も様々な取り組み、工夫をしていることがわかってきました。島根県は地元ユーザー団体とタッグを組んでパンフレット制作、配布まで行っています（P9に詳細）。前橋市では、飲食店に対し営業許可更新の際にリーフレットとステッカーを送って理解を求めています。栃木県では独自のアンケート調査を実施、学校教育の推進が必要との結果を受けて、教育委員会を通じリーフレット送付をするなど理解促進をしています。

セミナー後のアンケート調査にも協力いただき、福祉の窓口で対応する現場ならではの声を聞くことができたのも大きな収穫となりました。これらを反映して、このセミナーは内容を一層充実させ、定期開催を予定しています。全国の市区町村の担当窓口とつながっていきたいと思います。

コロナ禍の盲導犬ユーザー

聞き取り調査から見えた「困りごと」
「だからこそ」つながりを求めて

新型コロナウイルスの先行きが見通せない状況で、視覚障害の方の生活にどんな影響が出ているのか。
「困りごとは?」協会の聞き取り調査に対し切実な声があがりました。
一方、社会とのつながりを切らすまいと、ユーザー自身も行動しています。
コロナ禍のユーザーの様子を伝えます。

⬇非対面、非接触が進む社会で視覚障害の方は手引きや声かけを必要としています

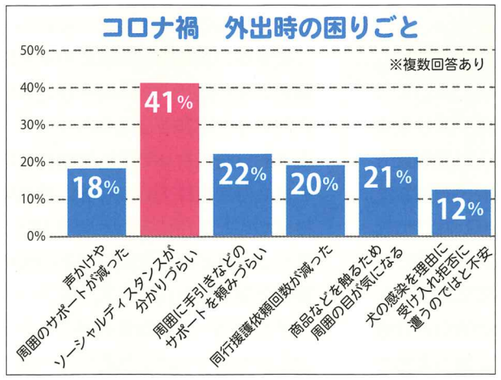
コロナ禍の盲導犬ユーザー 1

消毒液の場所 人との間隔が分からない

協会は例年、盲導犬歩行のフォローアップの一環で1、2月にユーザーに聞き取り調査をしていますが、今回はコロナ感染の広がりに対する不安や困りごとも尋ねました。対象は227人（男性104人、女性123人）。

感染防止のため「三密回避」や「ソーシャルディスタンス」が叫ばれていますが、そうした状況下での**「外出時の困りごと」**を尋ねた（複数回答可）ところ、**「ソーシャルディスタンスが分かりづらい」（41%）**が突出していました。次いで**「周囲に手引きなどのサポートを頼みづらい」（22%）**、**「商品などを触るため周囲の目が気になる」（21%）**、**「同行援護依頼回数が減った」（20%）**、「声かけや周囲のサポートが減った」（18%）が続きました。

調査では設問に対する選択肢回答だけでなく、話したい人には自由に語ってもらいました。「盲導犬ユーザーとして外出していることに何か文句を言われないか不安」「商品などに触ることに不安がある」。困惑する様子が伝わってきます。



人や物との距離についての意見

- 「消毒液の場所が分からない」
- 「スーパーのレジに並ぶのに距離感や進み具合が分からなくて困った」
- 「病院の待合室でソファの間隔を空けて座るのが難しい」
- 「距離を空けるので人の声が聞き取りにくい」

周囲のサポートに関して

- 「スーパーで手引きをしてくれず、声だけで案内された」
- 「スーパーでの買い物で以前はスタッフに頼んでいたが、この頃は同行援護を頼むようになった」

セルフレジの導入などが進む現実に対して

- 「店で機械での支払いが増えてきてサポートを受けるまでに時間がかかる」

コロナを理由にサポートを受けられない

調査では「盲導犬の受け入れ拒否」に関連して、**「コロナ感染を理由に、店や施設でサポートを断られたり、入店を拒否されたりしたことがあるか」**を聞きました。**結果、14人（6%）が「ある」**と答えました。

目が見えない、見えにくい人にとって、音声情報や触覚情報は日常生活に欠かせません。感染防止のため店頭で手指消毒が求められ、買い物でのカード決済など非接触型の行動が推奨されても、実行するには周囲の手助けが必要です。スーパーのレジで人との距離が適当か、盲導犬にはわかりません。手引きのサポートがないと、目的の商品を探すのが難しい方もいます。

感染予防対策をする際には、そうした方がいることを想定して対応を準備しておくことも必要です。加えて周囲の人の声かけやちょっとしたサポートがあれば、視覚障害の方の不安を軽減できるはずです。

コメント欄から何が起きていたのか追ってみます

- 「コロナなので犬から人にうつるので駄目と言われた」
- 「ヘルパーと出かける時、犬は留守番させてと言われた」
- 「いつも宿泊しているホテルなのにコロナだからと断られた」
- 「デパートの地下で買い物をするため、いつも通りの誘導を依頼したら、『感染症対策のためにできない』と断られた」

盲導犬同伴の受け入れ拒否が減った

最後に先ほど少し触れた盲導犬同伴を理由とした**「受け入れ拒否」**です。過去1年間（2020年1月から）**の有無を聞いたところ、93人（41%）が「ある」**と回答しました。

この質問は、障害者差別解消法施行（16年4月）の1年後から始め、55%（17年）→59%（18年）→60%（19年）→63%（20年）と漸増してきましたが、今回は41%に急減しました。

多数が「コロナで外出が少なかったので」とコメントしたように、コロナでユーザーの外出頻度が減ったことが下がった要因と考えられます。むしろコロナ感染という新たな受け入れ拒否理由が増えた、と言えるかもしれません。

コロナ禍の盲導犬ユーザー 2

つながりを求めて ～ユーザーが立ちあげた「オンライン」新年会

コロナ禍で開催が危ぶまれていた日本盲導犬協会ユーザーの会新年会ですが、ICTに明るい若い世代の役員が中心となり、オンラインでの開催に挑戦しました。見えない、見えにくい方がWeb会議システムzoom(ズーム)の操作をスムーズにできるかが大きな課題でした。

システムを知らない高齢の方や未経験者も多数。スマホやパソコンなど機種の違い、点字キーで操作する方など、それぞれの使用環境が異なる中、当事者同士でサポートすることは容易ではありません。講師役のユーザー1人が5、6人を担当し、一人ずつ根気よく接続できるまでガイドします。こうした事前の「練習会」を3回実施。協会からも当事者である職員1人が参加してアドバイスをしました。

迎えた当日、全国から37人のユーザーが参加。出欠確認や司会進行、気軽に話ができるようグループ分けするなど、運営すべてをユーザー自身が取り仕切り、大いに懇親を深めました。

「今まで会う機会のなかった遠方の方と思わぬ交流ができた」「会えなくてもオンラインなら気楽に話せる」と参加者からも好評、苦労のかいがありました。

今回の新年会運営の中心となった大沢郁恵さんは「ユーザー会役員や協会の皆さんが一緒に作り上げてくれたおかげで、無事新年会を実施することができました。zoomはパソコンやスマホがなくても、電話で参加が可能。なるべく色々な人が参加できるように活動を続けていきたいです」とますます意欲的です。

コロナ禍の盲導犬ユーザー 3

コロナによって「人の孤立」を余儀なくされ、ユーザーもそんな世情と無縁ではありませんが、「だからこそ」と社会に発信した人がいます。群馬県のユーザー小暮愛子さん。第18回オンキヨー世界点字作文コンクールで国内部門88編の中から最優秀オーツキ賞に選ばれました。審査の総評で「ソーシャルディスタンスをとる時代だが、生きていく中で心の距離まで空けないことが一番大事であると考えさせられた」と言われた作品を紹介します。

「メンタル　ディスタンス　～ have warm heart ～」

小暮 愛子

本来ならばオリンピック・パラリンピックで世界が一つとなって沸き立つはずだった2020年。新型コロナウイルス感染拡大を受け、世界中の人が恐怖に怯え、不自由な生活を強いられることとなりました。目に見えないウイルス、メディアが伝える溢れんばかりの情報に神経がピリピリしつつも、全盲の私には介助者との濃厚接触がどうしても避けられません。群馬県内の福祉事業所で職員の感染者が出た時には既往症のある父や同行してくれるガイドヘルパーさんのご家族のことが頭を過り、通院を控えました。パートナーである盲導犬のコニーと一緒にスーパーへ買い物に行く際も今までは店員の方に買い物をサポートしてもらっていたのですが、店全体が戦々恐々、とても依頼をできるような雰囲気ではありません。

日本盲導犬協会がユーザー262人に行った聞き取り調査でも私と同じようにコロナウイルスの影響を受け、社会のサポートを受けにくい、外出がままならないという回答が多くありました。まるで「ソーシャル　ディスタンス」と共に「メンタル　ディスタンス・心と心の距離」までもが広がってしまったかのようで、言いようのない寂しさが襲いました。かと言って家に閉じこもってステイホーム中の夫と子供達の為にとエンドレスな家事と闘い続けることにもほとほと疲れ、何もしゃべりたくないと思う時さえありました。

そんな鳥籠の中に入ってしまったかのような生活の中で、心が温かくなったのは同じ視覚障がいを持つ友達を近くに感じた時でした。誰しもが思うようにいかない状況にあって、気にかけてもらえたことが嬉しくて元気をもらいました。私達視覚障がい者にとって、直接会うことが難しいのは何もこの非常時に限ったことではありません。もともと多くのバリアと共に生活していることで、不自由さの中で人を思いやる気持ちや羽を伸ばす術を自然と身につけているのかもしれません。

読書家の友達からお薦めのデイジー録音図書(音訳図書)を紹介してもらって、今まで存在すら知らなかった、けれども自分にとってとっても大切な本と出会うことができました。作品を読み終わったあとに友達と感想を話すことも本を読むことと同じくらい大切な時間となりました。

それから、新たな経験がニューノーマルになっていき、外の世界へ出なくても鳥籠の中がまるで遠くまで見渡すことのできる自由な空間に感じられるようになりました。今まで行ったことのない場所を旅して、新たな出会いや経験が増えていくかのようです。月に一度通っていた英会話レッスンが借りていた施設の休館によりグループライン通話で再開することに。公共交通機関が不便な地方都市では単独の移動は難しく、ガイドヘルパーや家族の手を借りて集まることから月に一度の開催がやっとの思いでした。

ところが、グループラインを使うようになってからは先生の都合がつく時に、参加したい人だけで気軽にクラスに入れるようになりました。レッスン以外の時は、ラインのボイスメッセージ機能を使って日常のあれこれを英語で話し、録音したものをサークルの仲間にシェアします。牛乳パックを使って作る苺のアイスケーキ、白ワインにたっぷりフルーツを入れるスペインのサングリア。簡単で美味しいレシピを皆から紹介してもらって家族と一緒に作って食べました。作った感想を英語で吹き込み、その返事がまたボイスメッセージで返ってくる。思うように会えなくても、こうして心と心の距離が近ければ、温かい気持ちになれるんだと友達や仲間の存在に心から感謝しました。

世界中の共通認識として、「ソーシャルディスタンスを取る」と言うことはコロナウイルス感染防止の為にはとても重要とされています。ただ、そうした物理的な距離はどうしても心の距離「メンタルディスタンス」を作ってしまいがちなように思います。介助者との接触が不可欠である視覚障がい者にとってこの状況があまりに厳しいということは前述の通りです。

例え健常者であったとしても生きづらさや孤独感を感じ、メンタルバランスを崩してしまう方も多いとニュースで耳にします。誰しもが苦しい状況であるならば、元気をもらった人から周りの人に温かな心で関わっていけたら、どんなに素敵でしょう。「ソーシャルディスタンス」が必要であるならば、「メンタルディスタンス」はより一層大切なものなのだと今回教えられました。

Have warm heart !

温かな心を持とう !!

これは目が見えても見えなくてもできること。人種も性別も関係なく、できる人からほんのちょっと誰かのことを想うだけでできること。

2020年、未だ終わりが見えぬウイルスとの闘いに打ち勝つために必要なのはワクチンや特効薬だけではなく、私達自身の中にもあるのではないでしょうか？

盲導犬育成を支える

ボランティアLIFE

イベント活動に加えパピー育成に初挑戦 あれもこれも楽しみます

仙台訓練センター パピーウォーカー・イベントボランティア・デモンストレーター ●齋藤さん夫婦●（福島市）

➡修了式で。左から夫の弘さん、エトワ、妻の浩美さん。子供のいない夫婦にとってエトワは我が子のような存在です

パピーウォーカーとして初めて手がけたエトワ。夫婦はこの子に「笑永遠」という漢字をあてました。いつまでも笑顔で明るく過ごしてほしいからと。家に来たばかりのころは少し怖がりで慎重な性格が、「経験を積むうちにたくましくなって」。この1月の修了式では成長を実感しました。

夫婦の盲導犬支援活動は5年前から。その年に愛犬が亡くなり、思い出巡りの旅の途中に何気なく富士ハーネスをのぞいたのがきっかけです。デモンストレーションで盲導犬PR犬が凛々しく活躍する姿を見て感動して涙が出たそうです。「この活動を応援したい」。自宅から近い仙台訓練センターに行き、地元の方やボランティアなどが集まる「さくまつり」に早速参加。その後イベントボランティアに登録しました。職員の勧めもあり、デモンストレーターにも挑戦。

⬆感染拡大前、多いときは月4回ほど募金活動などのイベントへ。募金をしてくれる方から逆にお礼を言われることがあり、盲導犬育成がたくさんの人のあたたかい気持ちで成り立っていることを実感するそうです

人前で盲導犬の実演をするデモンストレーターになるための勉強は、パピーウォーキングで大変役立ちました。例えば排泄や犬のハンドリングなど。分からない事は訓練士からアドバイスをもらい安心できました。印象的だったのは訓練士からの「楽しみながら行える！ 8つの課題」です。散歩にも「レインコートを着て」「靴を履いて」「時間にして40分以上」と三つのケースがあります。車の荷台からパピーが自発的に降りる、段ボールのトンネルくぐり、水遊び、階段の上り下り、グレーチング（側溝にある格子状の蓋）に自分からのる。

例えば靴は後足2本から始め次は4本に慣らすなど、少しずつできる範囲を増やしました。階段も最初は苦手でしたが今では大好きに。「段ボールのトンネルくぐり」は、初めて挑戦したとき「目をつり上げ緊張した顔で通っていた」と笑う夫の弘さん。外出するのが大好きですが、初めて雪が降った日は「片足を上げて固まったのがおかしくて」と続けて妻の浩美さん。エトワと過ごす毎日は、夫婦にとって楽しい出来事の連続でした。

残念ながらコロナ禍でエトワとはイベントにほとんど参加できませんでしたが、訓練センターの夏休み見学会には顔を出せました。参加者にパピーウォーカーとしての体験談を話し、「楽しそうにしている私たちを見て、少しでも興味を持ってくれたらうれしい」。現在、2頭目のパピーを迎えるため待機中。「その子とはイベントにもたくさん出たい」「エトワとまたいつか会える日がきたら…淡い期待ですが」。近い将来から遠い未来まで、楽しみな予定が目白押しです。

心がふれあう

Heart to Heart

視覚障害や盲導犬について理解を深め
盲導犬ユーザーが生き生きと
安心して暮らせる社会を目指して
心のバリアフリーを広げる活動を紹介します

ユーザーと行政との絆が地域社会を変える

⬅リーフレットを手にする柳澤さん。「気軽に相談できる雰囲気作りも大切。この関係を次にもつなげていきたい」

障害福祉課 新人職員が奮闘

島根県で今話題のリーフレット「もっとどこでも盲導犬」。盲導犬への理解を深めて欲しいと2020年秋に県が作成しました。

きっかけは「島根ハーネスの会(ユーザーとボランティアの団体)」が昨年20周年を迎え、これを機にさらに盲導犬の理解促進に力を入れたいと県の健康福祉部障がい福祉課に相談を持ちかけたことでした。

担当したのは現在、この部署3年目の柳澤菜月さん。「当時は知らないことばかりで、盲導犬は何でもできる犬、声かけは控えた方が良いと思っていました」と振り返ります。島根ハーネスの会会長で、協会ユーザーの三輪利春会長より相談を受けた時は「一から教えて欲しい」と学ぶ姿勢で臨んだと言います。

ユーザーの思いを形に

柳澤さんは飲食店の入店拒否相談を受けたことがあり、盲導犬を持つことで、社会参加の機会が広がるはずなのに、ちょっとした理解不足から入店を断られ、その機会が狭まってしまう現状を目の当たりにしたのです。「行政の果たす役割は大きい」とパンフレット制作を思い立ちました。

三輪さんも県庁に何度も通い、盲導犬の受け入れ拒否を無くすために「ユーザーの声でできたリーフレットにしよう」と、その思いを柳澤さんと共有しました。制作にあたっては県内のユーザー、地元印刷会社や電鉄会社の協力があり、協会も加わって、みんなの思いが結束しました。

リーフレットは一般向けと児童生徒向け2種類を作成。新たに身体障害者補助犬啓発事業を予算化し、費用は全額、県が負担しました。県と島根ハーネスの会のホームページからダウンロードできるようにもして、飲食店や宿泊施設はもちろん、市町村の担当課や学校、公民館、保健所、動物病院などに8万部配布されました。地元新聞でも紹介され、小学校からは授業で使用したい、ファイリングして残していきたいなど大きな反響がありました。

育まれた信頼関係

三輪さんは県との関係について、「入店拒否の事例すら知らないまま福祉の担当者が代わることが多くあった。現実を知ってほしいという強い気持ちで活動してきた」と振り返ります。これに応え、柳澤さんは次へむけて早くも動き始めています。「日常の様々な場面で啓発したり、感謝の気持ちを伝えたりしたい」というユーザーの気持ちをくんで、「ありがとう」の思いを伝える配布用のしおりを作成中。当事者と行政が手を携えて踏み出した活動が、今地域を変えようとしています。

⬆柳澤さんは盲導犬ユーザーと共に防災訓練にも参加（右から3番目）。こうした地道な活動を積み重ねることで視覚障害の方から信頼される存在に

スタートライン
Start Line

皆さんのご支援に支えられて新しいパートナーと出会った共同訓練卒業生たち。喜びに満ち、まさにスタートラインに立ったところ

2021年3月までの共同訓練卒業生

●各ユーザーの紹介項目
ユーザー名・在住地（盲導犬歴）
盲導犬名（雄♂／雌♀）　犬種
❶共同訓練期間
❷パピーウォーカー名

●犬種記号
LR：ラブラドール・レトリーバー
GR：ゴールデン・レトリーバー

神奈川訓練センター　富士ハーネス

姉妹そろって盲導犬ライフ 健康の秘けつ「歩くことです」

⬇姉きみ子さん（右）がディナを傍らに「ミステリー小説が好き」と言えば、妹のぶ子さん（左）はジュノンを引き寄せて「私は時代小説」。二人の会話が弾んで、パートナーたちも穏やかな午後を過ごす

姉きみ子さんと妹のぶ子さん、共同訓練は富士ハーネスと神奈川訓練センターに分かれ、手渡された盲導犬に姉が「えっ、犬種はゴールデン」と驚けば、妹は「5頭目にして初めての黒ラブ」とびっくりという違いはありましたが、「外を歩くのが大好き」の気持ちは変わりません。

きみ子さんが「ディナとの散歩で体調がよく、かぜもひかないほどです」と話せば、のぶ子さんも「ジュノンは私の体と心の支えです」と語ります。

ここしばらくの間に姉妹には大きな決断が二つありました。一つは昨年11月、協力して40年営んできた治療院を畳んだこと、もう一つは盲導犬の代替に合わせて育成団体を替わったことです。

それまで他協会で姉は1頭、妹は4頭の貸与を受けていました。ユーザーにとって、協会を替わるのは簡単ではありません。姉妹は神奈川、富士と宿泊体験を重ねて、「この協会にお世話になろう」と決めました。姉が「年齢が高いので不安もありましたが、細かいところまで教えてもらいました」と言えば、妹も「最後の挑戦のつもりだった」と話します。共同訓練を受ける場所を姉は空気も水もおいしい「富士で」と、妹は犬を早く欲しいので「どちらでも」と言い、富士と横浜に分かれたのです。

共同訓練の後も協会からよく電話があり、「歩行具合など気にかけてもらっているのが伝わり安心するし、うれしい」と、姉のきみ子さんは言い、妹ののぶ子さんもうなずきます。

共同訓練で姉きみ子さんは、訓練士に「やりやすい方を」と言われ、ハーネスをU字型ではなくバーハンドル型に挑戦しました。腕がねじれず、「犬の動きがよく伝わってきます」。犬への指示語が日本語から英語になりましたが、前協会の癖で「レフトでなくたまに左が出てきて」と苦笑します。

妹のぶ子さんは盲導犬歴30年。前協会では犬を道路の建物側にして歩くのを基本にハーネスは右手と左手で持ちかえましたが、日本盲導犬協会は左手持ち。「戸惑いました」。しかし、盲導犬歩行の基本を学んだそうです。かつては「少し見えているのもあり、『犬任せ』だった」。それがハンドルから伝わる犬の動きから自分で判断して歩くに変化したそうです。「犬を使って歩く」と表現しました。

二人が目に異変を感じたのは少女期。まぶしさを強く感じ、眼科で進行性の疾患を告げられ、青春期からは手術の繰り返し。姉妹は「数えきれないほどやった」と述懐します。それでも盲学校で鍼（はり）やマッサージを学び、1980年に協力して治療院を開業しました。

姉妹は実は白杖（はくじょう）が苦手です。そろって「自己流です」と笑います。全く見えなくなるのは相前後して6、7年前。少し見えているうちに盲導犬を手にしたのです。妹が先でしたが、治療にくる人の中に盲導犬ユーザーがいたのがきっかけです。「歩くにはこれだ」。

治療院を閉じたのは、姉が手首の骨折ですでに引退しているところへ、妹も手の指に力を入れると痛みを感じるようになったからです。犬の共同訓練に入る前という時期をとらえて、「思い切って閉じよう」と区切りをつけました。

きみ子さんが「遅まきながらどこかへ旅行したい」と言えば、のぶ子さんも「楽しみを探して出かけたい」と答えます。ディナとジュノンが二人の意欲をかきたてます。

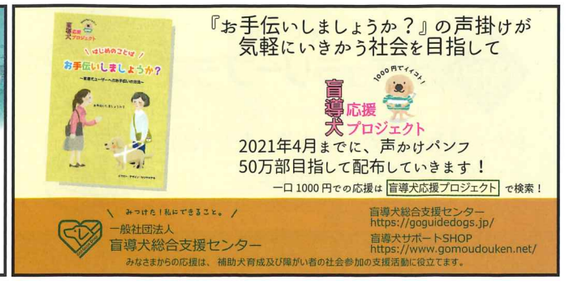
青木 のぶ子さん
愛知県丹羽郡（5頭目）
ジュノン（♀）LR
❶2020.11.23～12.11 ❷東 晴美さん

青木 きみ子さん
愛知県丹羽郡（2頭目）
ディナ（♀）GR
❶2020.11.16～12.16 ❷久保 晴彦さん

⬆「歩けるうちは出かけたい」。きみ子さんがディナと散歩をすると、「犬が替わったね」と声をかけられることも

⬆「ジュノンちゃんは私の歩きに合わせてくれて」。のぶ子さんはオカリナを習いに出かけたいと思っています

⬅「二人で追いかけっこするのよ」「おもちゃを放ると喜んで拾ってきてね」。ディナとジュノンはどこにいてもかわいい



神奈川訓練センター

二人で１頭を使うタンデムユーザーです。エディーは最近の「草食男子」でおとなしく気遣いのできる子です。夫婦がけんかをしたときは私たちの体を「よしなよ」と言うように鼻でつつき、空気を和らげてくれます。外出先でもおかげで周囲からよく声をかけられます。家の内外で人との架け橋になって近所の交流も盛んに。コロナ禍で最近は好きなお酒も家で夫婦向かい合って飲み隣にはエディー。収束したら家族３人で旅行に行きたいです。

望月 敏彦さん、操さん
東京都あきる野市(4頭目)
エディー(♂)LR
❶2020.12.7～12.18
❷寺口 和幸さん

コロナの中、訓練士と職員たちのおかげで無事共同訓練を終えることができました。エイミーとの生活も４か月を過ぎシックリしてきました。エイミーが来て、ますます盲導犬と歩くことがかかせないものになっています。心強さと充実感幸せ感が大きくなっています。暖かくなったら高尾山が近いので回数券を持っていくくらい日常的に登ってみたいと思っています。エイミーよろしくね。元気に歩こうね。

荒川 明宏さん 東京都練馬区(3頭目)
カラ(♀)LR
❶2021. 2. 8～2.17 ❷田中 和義さん

いろいろな事情で昨年 11 月に２頭目のグミちゃんと離れ、妻の盲導犬カラちゃんとタンデムで生活することになりました。妻は弱視のため、一緒に行動する時は単独歩行で、私が犬と歩くことも。前を歩く妻が右に曲がっても、カラちゃんは指示がない限りちゃんとまっすぐ進み、妻とはぐれることがたまにあります。仕事に忠実でマイペースなカラちゃん。一緒に仕事で全国に行きたいと思っています。

坪坂 かほるさん
東京都八王子市(3頭目)
エイミー(♀)LR
❶2020.11.14～11.30
❷田中 秀俊さん

無理なく、続けられる
NATURALLY PLUS ナチュラリープラス®
The Global Healthcare Company
私たちは盲導犬の育成支援・普及活動を通じ、皆さまの健やかな暮らしを応援しています。
株式会社 ナチュラリープラス 〒106-6035 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー35F
TEL 03-6230-3311 FAX 03-6230-3011 URL http://www.naturally-plus.com

intage Know today, Power tomorrow
株式会社インテージでは、アンケートモニターの皆さまの善意により、謝礼の一部を日本盲導犬協会に寄付させていただいております。
株式会社インテージ http://www.intage.co.jp/
キューモニター募集 https://www.cue-monitor.jp/

郡(こおり) 悟さん
東京都江東区(3頭目)
ミック(♂)LR
❶2021. 2.15～2.26
❷佐藤 昇一さん

ミックの性格は、まじめで寂しがりやで、ちょっと気が小さいところがありますね。１頭目のパートナーと似ているんですよね。歩きは、意欲的で、とても楽しそうです。２頭目のパートナーを思い出します。ミックと過ごしていると、今までの２頭も身近に感じられて、とても幸せな気持ちになれます。まずは、肩の力を抜いて、ミックとゆっくりと歩いて行きたいと思います。

先日、家族でお墓参りに行きました。スタンのことを報告して、帰りに回転ずしへ。初の外食でしたが、足元でおとなしく待機してくれていました。歩きはしっかりと元気よく。性格は少し気分屋な面があり、おもちゃに反応しないときがあります。毎日、開業している治療院へ一緒に出勤し、看板犬の役割もしてくれています。仕事が落ち着いたら、趣味で 20 年以上やっていたブラインドテニスを再開したいです。

熊谷 淳さん 東京都東村山市(3頭目)
スタン(♂)LR
❶2021. 2. 22～3.12 ❷寺口 和幸さん

富士ハーネス

吉川 勝彦さん 甲府市（8頭目）
ジャック(♂)LR
❶2021. 2. 8～2.19

８回目の共同訓練ですが、毎回初心者のような新たな気持ちで臨んでいます。人の癖が伝わって犬に迷いが出ないようにするためです。今までになかったのが、犬が後ろ向きで一緒に車に乗ること。初めての試みでしたが、降車も難なくできました。妻も盲導犬ユーザーで朝はそれぞれのパートナーを連れて一緒に散歩に行きます。最後の盲導犬かなと、健康第一に、ジャックとお互いに定年まで歩きたいです。

一般社団法人日本自動車販売協会連合会 JAPAN AUTOMOBILE DEALERS ASSOCIATION
自販連では、公益信託自販連盲導犬育成基金を設立し、全国の目の不自由な方々に、盲導犬貸与の助成事業を行っております。
〒105-8530 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館15階
TEL：03－5733－3105

わかさ生活は盲導犬の育成を応援しています。

2021年度　事業計画・収支予算

盲導犬育成事業

❶視覚障害者に対する歩行指導及び盲導犬貸与
- 35ユニットの盲導犬を育成

❷盲導犬の認定
- 海外からの旅行者に「期間限定証明書」を発行

❸犬の飼育及び訓練
- 候補犬100頭を訓練する
- 100頭以上の子犬を安定確保
- 繁殖犬の安定飼養頭数に取り組み、出産適齢を管理
- 健康理由、稟性理由によるキャリアチェンジ犬の減少
- 100頭の子犬をパピーウォーカー(PW)に委託、パピー飼育の環境整備
- 13年目となる島根あさひ盲導犬パピープロジェクトは4頭で実施
- 盲導犬の引退は25頭前後。引退犬飼育ボランティア、富士ハーネス引退犬棟の連携で引退犬のQOL向上
- ケンネル業務の質の向上と効率化
- 疾患の早期発見、発病件数の軽減
- 大学獣医科病院・専門医における医療協力体制をさらに強化

❹盲導犬ユーザーに対するフォローアップ(FU)
- 共同訓練直後から1年以内のアフターケアを充実、新ユニット出発式を拠点ごとに実施
- 盲導犬歩行状況等情報に基づき、各訓練センターあるいは現地での問題解決FUを行う
- 犬年齢6歳時の集中型FUの定着

❺盲導犬訓練技術の向上
- 訓練技術強化、訓練期間の短縮と成功率の向上
- 基礎訓練、共同訓練技術の向上を図るため、技術評価、スキルマップの活用による計画的OJT、集合研修を行う
- 共同訓練工程においてのマッチング適正率の向上
- 盲導犬歩行に関する新技術、手法を習得し、研究発表大会で共有を図る
- 歩行支援技術の研究に取り組み、補助具開発を継続

❻犬舎・施設改修整備
- 各訓練センターの育成規模、犬舎機能、福祉施設としての社会的役割を検討し、全体的な整備基本計画を作成
- 神奈川訓練センター犬舎棟の改築
- 富士ハーネス引退犬棟の改築
- 広島訓練センターの新築構想、仙台訓練センターの改築構想は長期的視点で検討

盲導犬歩行指導員等育成事業

❶盲導犬訓練士の養成
- 准訓練士(研修生)の計画的指導
- 訓練士学校2年生3名の指導

❷盲導犬歩行指導員の養成

❸盲導犬歩行指導力のレベルアップ
- 白杖歩行指導員養成プログラム実施

調査研究事業

❶盲導犬の人工繁殖・育種技術の研究継続

❷大学との研究協力・連携
- 盲導犬ゲノムプロジェクトに協力

視覚障害支援事業

❶盲導犬歩行についての理解促進とリハビリテーション相談
- 行政との連携強化で視覚障害リハビリテーションの情報を速やかに提供
- 盲導犬体験歩行会を85回、盲導犬説明会を32回開催
- 盲導犬オンラインセミナーを目の見えない・見えにくい人向けに12回、行政職員向けに12回実施

❷ユーザーコミュニケーション
- ユーザーからの聞き取りにより盲導犬歩行状況や健康・生活状況を把握し、課題の早期発見に努め訓練部によるFU実施につなげる
- 盲導犬6歳時コミュニケーション会を対面とオンラインの併用で開催
- 災害時の安否確認、コロナ禍の生活状況の聞き取り調査

❸視覚障害者在宅生活訓練
- 1,000コマの在宅訓練(白杖歩行訓練等)実施、神奈川訓練センターは首都圏対象に開始

❹視覚障害リハビリテーション相談

❺短期リハビリテーション7回開催

❻視覚障害児キャンプを仙台で実施

❼各種研修会への参加

❽生活講習会の開催

❾「パートナーズ」を4回発行

普及推進事業

❶センター内普及推進活動
- 盲導犬デモンストレーションや盲導犬ユーザーの講話を提供
- 富士ハーネスでは個人・団体の見学者を積極的に受け入れ、他のセンターでは定期的な見学会を実施

❷センター外普及推進活動
- 小中学校キャラバン、盲導犬受け入れセミナー、ふれあい広場、団体での普及推進活動、首長訪問、動物介在活動・動物介在療法を行う
- ユーザーからの受け入れ拒否の訴えに対して、問題解決をはかるアドボカシー活動を積極的に行う
- オンライン配信での普及推進活動
- 盲導犬育成チャリティーゴルフ大会を開催

広報事業

❶協会活動の広報
- 真の共生社会を目指す広報を展開

❷ホームページ運営・電子コンテンツ運営
- 動画配信などSNSを活用した発信

❸会報誌「盲導犬くらぶ」を年4回、5万部発行・発送

関係団体協力事業

❶各種団体との連携

❷国際的な協力関係の強化

その他事業

❶井上ビジョンの展開
- 東京大学盲導犬歩行学連携講座で各種研究活動を行う

❷ACジャパンの支援キャンペーン
- 視覚障害当事者に盲導犬を使った外出呼びかけの広告活動

❸人材育成

❹東日本大震災支援
- 被災者への更生相談、リハ支援

❺協会ICTインフラの活用
- 多様な働き方に対応するためのシステム構築

●2021年度予算

(単位:円)

科目	2021年度	前年度
1．経常増減の部		
(1) 経常収益		
基本財産等運用益	5,700,000	4,500,000
受取会費	243,000,000	243,000,000
事業収益	34,700,000	37,300,000
受取補助金等	25,780,000	23,570,000
受取寄付金	770,420,000	771,430,000
雑収益	400,000	200,000
経常収益計	1,080,000,000	1,080,000,000
(2) 経常費用		
公益目的事業 盲導犬育成事業費	443,110,000	431,495,000
公益目的事業 盲導犬歩行指導員等育成事業費	12,920,000	22,895,000
公益目的事業 調査研究事業費	24,310,000	27,720,000
公益目的事業 視覚障害支援事業費	66,830,000	57,315,000
公益目的事業 広報・普及推進事業費	213,080,000	201,180,000
公益目的事業 関係団体協力事業費	1,870,000	5,790,000
公益目的事業 訓練センター管理費	133,350,000	130,905,000
公益目的事業 事業共通費（減価償却費等）	56,200,000	64,000,000
公益目的事業費 計	951,670,000	941,300,000
法人管理費	128,330,000	138,700,000
経常費用計	1,080,000,000	1,080,000,000
当期経常増減額	0	0
2．固定資産等投資活動増減の部		
固定資産等投資活動収入	0	0
固定資産等投資活動支出	203,500,000	179,080,000
固定資産等投資活動増減額	△203,500,000	△179,080,000
当期増減差額	△203,500,000	△179,080,000

生まれました

2021.2.2 誕生
オス4頭
メス1頭
父犬カーロ(LR)×
母犬ヴァトン(LR)

2021.2.25 誕生
オス4頭
メス3頭
父犬カーロ(LR)×
母犬イリマ(LR)

みなさんに支えられて

12月10日～3月10日

犬種記号
LR/ ラブラドール・レトリーバー
GR/ ゴールデン・レトリーバー

2020.12.19 誕生
オス3頭
メス2頭
父犬ルバーブ(LR)×
母犬ナッツ(LR)

亡くなりました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	死亡日
ジョディ♀	村田 京子さん	貞廣 孟史さん	2020.12.29
ダルク♂	三瓶 岩夫さん	髙根 直子さん	2020.12.31
エルフ♂	飯山 リサさん	中島 延淑さん	2021.1.11
ワイズ♂	渡邉 到さん	石川 光子さん	2021.1.14
ハグ♀	兼安 信子さん	金子 孝子さん	2021.1.21
ウェーブ♀	押野 まゆさん	中島 治さん	2021.1.24
リッチ♀	斉藤 静江さん	佐伯 晶子さん	2021.1.26
スパイク♂	(関西盲で活動)	賀集 眞さん	2021.2.1
ポール♂	井上 三郎さん	水野 あゆみさん	2021.2.14
パドル♀	猪狩 行男さん	中村 勝美さん	2021.2.15
セナ♂	中川 和男さん	一瀬 聡彰さん	2021.2.22
ウタ♀	安彦 隆昌さん	渡邉 百子さん	2021.3.2

協会ブログでは、
子犬の
子育て日記など掲載中！
http://ameblo.jp/jgda-guidedog/

委託しました

父犬ルバーブ(LR)× 母犬ナッツ(LR)	
ピノ♂	阿久津 洋さん
パル♂	山田 玲子さん
パティ♀	佐藤 茂さん
パーチェ♂	島村 一秋さん
ポム♀	恩田 佳則さん

父犬ウィンダム(LR)× 母犬ルーティ(九州盲)(LR)	
ラス♂	大内 崇さん
ライズ♂	菅野 友絵さん

引退しました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	引退日
アルタ♂	神﨑 好喜さん	調整中	2021.1.4
エドナ♀	前川 花子さん	調整中	2021.1.5
ワイオリ♂	吉川 勝彦さん	調整中	2021.1.7
ウィル♂	熊谷 淳さん	調整中	2021.2.27
ナラ♀	滝 憲子さん	調整中	2021.3.8
アイク♂	白井 公子さん	調整中	2021.3.8

盲導犬育成状況

合計頭数…673頭(2021年3月26日現在)

委託前パピー	10頭	繁殖犬	52頭
パピー	50頭	PR犬	25頭
訓練犬	59頭	引退犬	162頭
盲導犬	260頭	繁殖引退犬	55頭

みなさんからいただいた「声」を紹介する

ハーネスひろば

協会のご支援者や
ボランティアの方から
届いたメッセージを紹介します

5年前から俳句を学び始めました。70代になる直前でした。拝見していた「盲導犬くらぶ」にあった写真に目が留まりました。盲導犬として仕事をしている姿とは異なるお母さんになった盲導犬の、なんとも優しいまなざしが写っていました。

花こぶし 盲導犬に子の生まれ

俳句を読んだ知人から「目の不自由な人に寄り添う盲導犬が、今日は、母として子犬を慈しむ。花こぶしに寒暖の交差する気配」と褒められ、うれしかった2年前の今頃をふと思い出しました。この1年、そしてもうしばらくは大変な日常が続きますが、皆様どうぞお健やかで。

東京都府中市　角田典子さん より

前号、楽しく読みました。特にハーネスひろばの金山君、ボランティアLIFEの望月さんの文章にほっとしました。コロナ禍で、他人を思う余裕などなくなっていた昨年。インターネットでペットの動画などを見ていますが、人のために働いてくれる犬たちに本当に感謝です。

千葉県柏市　N.S.さん より

パピーウォーカーとして初めて一緒に過ごしたファナと主人が、今、JR広島駅前の「魅せる仮囲い」に載っています。ファナ、とてもかわいく写っています。5月頃まで掲出されていますので、もし行かれる機会がありましたらぜひ見てみてください。

**広島県廿日市市
淀川葉子さん より**

飲食店向け「オンライン盲導犬ユーザー受け入れ・接客セミナー」定期開催スタート

店舗や施設におけるサービス提供時の不安解消を目指した「オンライン盲導犬ユーザー受け入れ・接客セミナー」を、飲食店の事業者向けに特化して4月から月に1回、定期的に開催予定です。

盲導犬ユーザーや視覚障害への理解を深め、事業者が安心して盲導犬ユーザーを受け入れることができるよう実施します。全国の事業者皆さまのご参加をお待ちしております。

【開催日時】
4月19日(月)・5月24日(月)・6月21日(月)
各回14:00～15:10

※参加は無料です。
※飲食店以外の他業種の事業者向けセミナーも開催予定です。

詳しくは、
協会ホームページをご覧ください。

編集室より

ボランティアの淀川葉子さんからお便りをいただき、詳細について夫の和裕さんに話をうかがいました

広島市と西日本旅客鉄道では、広島駅南口広場に設置された工事用仮囲いを「魅せる仮囲い」として活用。和裕さんは市の担当者として、広島の誇りや魅力を発信しようと取り組んでいます。今回は「広島の酒」の魅力を伝えるため、お酒を家でたしなむ写真を一般公募し、掲出することに。お酒が大好きな和裕さんは、夜な夜な自宅でファナに話しかけながらお酒をのんでおり、「ファナとの思い出を残すチャンス」と自らも公募、みごと選ばれました。お酒を目の前にうれしそうな和裕さんと寄り添うファナがほほえましいですね。

いつも以上に楽しそうなファナが印象的だったキャンプなどファナとの思い出は計り知れないといいます。和裕さんは、ファナが盲導犬になり活躍することを願いながら、そしてまたいつかファナと会える日を楽しみに日々仕事に励んでいると語っていました。

●「盲導犬くらぶ」の感想やご意見、盲導犬との出会いやエピソードなどを盲導犬くらぶ編集室までぜひお寄せください。1通1通のお便りが私たちの大きな励みとなります。

●あて先
公益財団法人日本盲導犬協会　盲導犬くらぶ編集室
〒150-0045　東京都渋谷区神泉町21-3-3F
FAX:03-5452-1267　e-mail:info@moudouken.net